

長野で暮すマイノリティを生きる僕らのために、
僕らが作るフリーペーパー

vol. hanpo 13

TAKE
FREE



思いがけないこと

topic



- 思いがけないこと
- 表裏一体
- 瞳に映るものがどうか優しい
記憶に続いてゆくように
- 御神輿の木片との出会い
- あのとみえなかったもの
- 本棚のオキグスリ
- 空想ハピネス図鑑

hanpoは、さまざまないきづらさを経験してナガノで暮らして
複雑な思いをしているあなたに、ナガノに住む半歩先にいる人たちの
声を伝える手紙です。



とは

いま、様々なマイノリティのもとに孤独を感じていたり

つらい思いをしている10代から20代くらいのあなたへ

ナガノで様々な生き方をして暮すマイノリティ※の経験者たちが

自分たちの経験を伝えるフリーペーパー&SNSです。

思いがけないこと

こんばんは、わたしは決めたんです。

これは、ととても大切なことで、

誰にも追求されないこと

今晚、この決断をしたからには

さまざまに、決別もともないます。

でも仕方ありません、もう決めたのですから！

大切なことですから、

少しくらい矢うものもあります、

でもそれを厭わないくらい大切な決断でした。

そうやってわたしは一本の線を引きました。

朱色の線。

おやすみなさい、これから矢う多くのものたち

そして、朝が来てしまいました、

おはようございます。

目が覚めてしまいました。

おめでとう！残念でした！

これがわたしの人生でもっとも思いがけない出来事。

hanpoという マイノリティ とは

不登校やひきこもり、学校や家庭の問題だけではなく、

発達障害、身体障害、内部障害、LGBTQ、

国籍、様々な事情…etc

これらに当てはまらなくても、暮らしていて感じる様々な、
人に伝えにくく理解されにくい生きづらさのことを指す。

す
続
き

わたしの人生で最も思いがけなかったことは、

今生きていること。

今の人生、わたしは自分で手放したものだと思っていたもの。

あの目死ねていたらどんなに楽だったろうか。

七転び八起き、でもその後七転び八倒したらもう起きないかもしれない。

いちど社会の中から零れ落ちて、もう一度帰れる保証なんかどこにもなくて、

もう一度落ちたら、もっと自分が惨めになって家族を苦しめるかもしれない、

そんなふうに思っていたあの目。

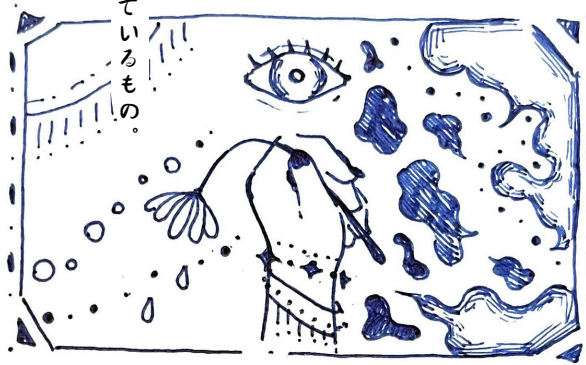
だけど、

あの目死んでいたら、

あれからおきた思いがけない出来事の数々を目撃することもなかった。

残念だったよね、

でも、結果的には悪くないんじゃないかと、あの頃の自分に訊ねる。



ほんだなのオキグスリ

今回の本棚

物語のはじまり

「思いがけないこと」の反対は何だろう。
と考えたとき、それは「あたりまえ」ってことかなと思った。
あたる前にわかる事、考えるまでもないこと、

でもそれって、つまり日常は何も起こらないことを望んでいるけど、

私たちは、そこにドラマを求めている。

それがはじまるのが、きっと思いがけないことなんだと思う。

そして、それを物語って呼ぶのかもしれない、
今回はそんな、思いがけないこととの出会い。

「勉強よく出来て偉いね、私は中学までしか行けなかったのよ」
 「今日の作ってくれたご飯美味しいよ、私は片親で教わる機会もなかったからね」同居するようになってから、祖母が私の事をどう思ってるのか途端に分からなくなった。それまでは、ニコニコと孫と食卓を囲むのを楽しみ、花火を内緒で用意してくれたりする人だった。なにか、どこかで、私がやってしまったのだろうか。祖母は私にだけ生焼けの親子丼や、もしかしてまたビニール片を入れたモノを用意した向かいのテーブルで「今日もたくさんお勉強するのねえ」と満面の笑みですまして食事を始めようとしていた。同居初期時代の祖母は、温かい油の下に氷水を隠しているような人だった。いや、正確には今もそんな人だ。祖母という名の「彼女」は、誰より家族と一緒に仲良くしていることを望んでいて、自分より後に生まれた孫など「恵まれた人々」を腹の底で不愉快だと思いつくり返っている。彼女は、認知症という病の中で私達を愛して憎んでいる。愛するけど憎んでいるのだ。自分の子らが誇らしい。アイツらはなぜ苦労しない。人には一貫してない事もあるとまざまざと思い知る日々だ。それと同時に、「彼女」を虚しくて哀しい人と思いついて、「自分の在り方」が何年もかけて芯がワイヤ―を編み込むように一本出来ていくように感じる。どう生きていくかを知らなければならぬ訳が今ここにある

A
N
N



「ホビットの冒険」/ J・R・R・トールキン

映画、ロードオブザリングこと指輪物語の前日譚。

穏やかに暮らしたい小人のもとに、一緒に旅に出たい魔法使いのおじさんがたくさんのドワーフをけしかけて、家が占拠されてしまうところは、なんでこうなるのよ～って笑っちゃう。そこから始まる小人の冒険と成長のお話し。

日常の中のおもいがけないものは、いったいどこにあるんだろうか。少なくとも、物語のはじまりはいつだって思いがけないもの。もしかしたら、思いがけないものは、今の時間軸には存在しない、未来から、過去に向かったときに観測できる不思議なものなのかもしれない…え？何言ってるかわかんないって、いつかわかるときが来るかも…？

「瞳に映るものがどうか優しい記憶に続いてゆくように」

僕が子ども頃、学校はいじめと閉塞感の坩堝だった。

僕の特異な家族のギクシャクとした関係も相まって僕に安心と安寧をもたらさず一隅は家にも学校にも存在しなかった。

唯一の理解者だった母は学校の人と戦争を繰り広げ、僕はいつも学校に行けば泣きじゃくっていた。先生たちはいじめの子に阿り、只おろおろとその場しのぎで対処するだけだった。

学校にも、家にも居場所がなかった時僕を救ってくれたのは僕の住む

長野から遙か遠く青森に暮らす祖母だった(たっちゃんよの猫を一匹飼っていた)。祖母にはお盆の帰省などで年に一度は会っていたが遂に進退窮まった時、祖母のいる青森へ逃避行したのだった。

祖母は文句も言わず只僕を受け入れてくれそれから約一ヶ月祖母と僕と猫と、山奥の蝉時雨がうるさい夏を過ごしたのだった。

祖母は心配して幾度も連絡をしてくる母に「こっちはこっちで勝手にやってるから心配するな」と言っていたそうだ。二人で片道900円かけてバスで隣の弘前市まで降りて買って買物

して駅前の蕎麦屋で蕎麦を食べて祖母に合わせて甘いカレーを作って、祖母が散歩に出れば猫はその後を追いかけていくのを見送って

山深い土地で祖母と猫と過ごしたあの月日は僕の心の中に綺麗な泉のような清冽なイメージとして深く刻まれている。

今は七き祖母は単に逃避行の場所を提供してくれただけではない。祖母は僕に学校のことや家族のことを無闇矢鱈には聞いてこなかった、僕が突然「長野に帰る」と言っても文句も言わなかった。

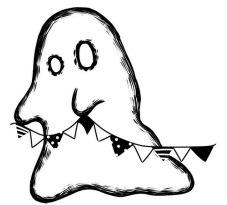
こんなにも静かに僕を見守ってくれる存在は祖母以外にはいなかった。僕という存在を多く語らずとも認めてくれる、祖母の在り方は僕に

人と人との間に流れる温かみを教えてくれた。

祖母のお陰で今の自分があると胸を張って言い切れる。おばあちゃん、ありがとう。



匿名



ほんだなのオキグスリ

「ウフコロジー入門」 糞土師・伊沢正名

かつて私は自分のことを食べて寝てるだけで何も役に立たない「ウフコ製造機」だと揶揄していた。

しかし著者は言う。「ヒトがつくりだす最も価値のあるものはウフコ。人間にできる最も尊い行為、それはノグロ。」だと。命をいただき、ウフコをつくり、ノグロによって命を還していく。ウフコを通してみつめる命と、自然の関係。きらいなアイツも、ままたらない自分も、等しくウフコをする仲間…自分も偉大な生命の循環の輪の中にいるのかも…自然ってすごい…という謎の感動と爽やかな読後感がきもちいい一冊です。

(注)ウフコとか骨とか虫とかキノコの写真が出てくるから苦手な人は気をつけてね。

御神樂の木片との出会い

私は長野県の本曾福島に住んでいる。本曾福島では、7月22日と23日に大きい夏祭りがある。

22日には花火が上がったり、23日には「御神樂を落として壊す」という恒例行事がある。私はどちらの日も、家族と一緒に祭りへ出かけた。屋台の千ユロスやかき氷などを買い、それだけでも大満足なのに、

23日に思いがけない出来事が起こった。御神樂を見に行こうと、屋台の場所から少し離れた。そこで逸れていた家族と再会し、

一緒に御神樂を見た。大勢の人が御神樂を見にきていた。本曾福島では、御神樂を担ぐ男性が数人くらいいて、そのうちの一人が神樂の上に立って、思いっきり御神樂を下に落とすのが恒例。御神樂は高級な木で作られている。思いっきり下に落とすため、木の欠片が散らばることがある。その木片を

貰って帰ると「良いことが起こる」という言い伝えがあるため、散らばった木片を目掛けてお祭りに来る観光客もいる。お祭りに行く前、家族と

「木片もらえたらいいね」と話した。私の母によれば、御神樂を担ぐ人に「木片ください」と言ってもくれないうことが多々あるらしい。母から

その言葉を聞いた時、そのくらい木片は価値があるのだなと思った。本当に欲しかったら、自ら率先して御神樂のそばへ行行って

木片を拾うしかない。

スマホのアルバムに御神樂の写真をしっかりおさめた後、「帰ろうか」と

父が声をかけ、家まで歩いて帰ろうとした。

しかし！

帰ろうとしたその瞬間、後ろから「すみません」と男性の声がした。

最初は誰に声をかけているのか分からず家族みんな振り向かなかったが、それでもまだ「すみません！」と声をかけてきたので振り向いた。すると

御神樂を担いでいた人らしき男性が「これ、よかったらどうぞ」と言っ

て2個の御神樂の木片をくれた。「え！ありがとうございます！」と驚いたように家族みんながおれを言った。偶然の出来事に、自分も家族も、ものすごく興奮した。



ほんだなのオキグスリ さんぽ神 / ドロツセルマイヤーズ

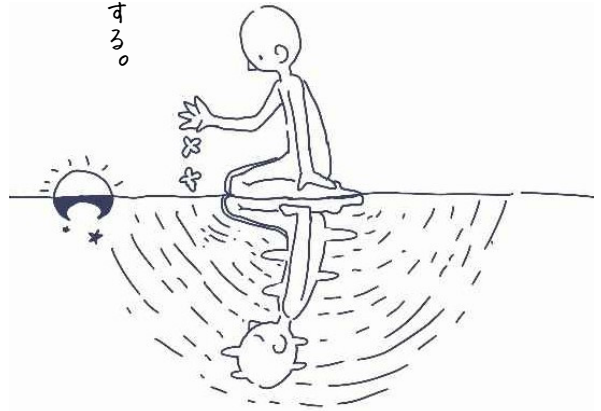
ゲーム…？ゲームかな？手のひらサイズのパラパラ漫画のような本に
左と右のページに「どこで」「なにをする」

という言葉が書いてあって、それを目的に散歩するというゲーム？という感覚だけどw
いつもと同じ場所を歩いていても、思いもよらないものに出会ったりするかもしれない
なんか、アプリ版もあるんだとか？

お祭りに行く前に家族みんなが願っていたことが、思いがけない一つの出来事で叶った。いまだに私は「なぜあの人は私たち家族に木片をくれたのだろう」と疑問に思う。しかし、木片をもらえたことでいいことがあると信じている。御神樂は神様が宿っているから。私の家族は五人いる。木片は2個しかないため、私と姉が貰った。四角い缶の中で保管したり、時には可愛いポーチの中に木片を入れて持ち歩いたりしている。「家族みんなの健康や幸福が続きますように」。「自分の就職先が決まりますように」。「木片をくれた方にも幸せが届きますように」。

様々な願いを唱えながら、木片を持ち歩いている。木片はすごく良い匂いがする。木の透き通った匂い。まるで林の中にいるかのような新鮮な香り。この匂いを嗅いでいるだけでモリフレッシュして、良い気分になれる。神様がいつも家族を見守ってくれていると思うと、なんだか安心してくる。神様、木片をくれた方にとっても感謝している。普段体験することがない出来事を経験できたのが嬉しかった。屋台で買った食べ物は食べればすぐなくなってしまうから、お祭りの思い出しとして何か形に残るものが欲しいと思っていたため、今回木片がもらえて感動した。今後、学校の試験や就職活動の面接などのあらゆる行事の際は、お守りとして木片を持ち歩こうと思った。家の屋根に投げれば家族の無病息災が叶うという言い伝えもあるが、私は大切に保管しておきたいから、投げることはしない決断をした。自分を含む家族全員、木片をくれた方、そして今hanpoを見てくださっている方みんなの幸せが続きますように。そう願って、これからもお守りと共に人生を歩んでいきたい。

もちもなか



ほんだなのオキグスリ

以前の hanpo / hanpo編集部

ときどき振り返るようにhanpoを読むのだけど、
以前読んだ時よりもきっと日常の中で、何かを得ていたり、
考え方が変わっていたりしているんだと思う。
hanpoが変わったのか、人が変わったのかわからないけど
思いがけないことに気づくかもしれない

あ の と き み え な かつ た も の

大人の男性が涙を流す姿をはじめてみた。社会人になって、2度目に勤めた地元の小さな古い会社。

なんとか長という肩書きがある人で、無愛想で、文句ばかり言う人だった。いつも揚げ足をとるようなことを言ったり、怒鳴ったり。仕事に一生懸命

だけど、あんまり人望はないような印象。入社したての頃、「教えてないけど理解しろ」と理不尽に叱られて以降、こいつの話は聞かないぞと決めた。その会社でわたしはうつ病になった。

薄ぼんやりと死にたいなあと思う日々が、会社で過ごすうちに毎日、今すぐ、死ななければ、消えなければと思うようになった。会社の中では理不尽なことがたくさんあった。

自分のメンタルがボロボロすぎて少し注意される度に泣いていた。中には気にしてくれる人や、助けてくれる人もいたけど、

当時はありがたいよりも「こんなゴミのお世話まで、すみませんね」という皮肉めいた気持ちだった。あの頃の自分は心に穴が空いていて、何もかもがすり減りすぎていて、目の前の問題に立ち向かう気力も

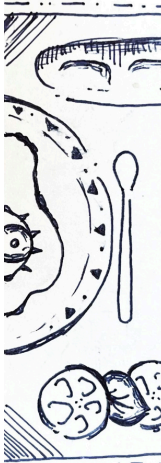
体力もなかったんだと思う。数年たって、いよいよこの世から消えようとしたところを親に見つかった。

それをきっかけにやっと会社で「辞めます」と伝えて、会社の偉い人たちと面談することになった。

その中にいたのが不機嫌顔の揚げ足取り男こと、なんとか長だった。

いるよな、立場的に。その時のわたしは荒んで荒んで荒んでいて、世紀末の荒野にいる死んだ目のモヒカン野郎くらい世の中を恨んでいたし、目の前にいる偉い人たち全員を血も涙もない冷血人間だと思ってた。

そんな人たちに向けて本当の気持ちを喋るのは怖かった。首にヒモをかけるより怖かった。「どれだけやっても認められない、もう疲れしました。」と絞り出すように言った。



ほんだなのオキグスリ

「君と宇宙を歩くために」 / 作者:泥ノ田犬彦

ジャンル:マンガ

ドロップアウトぎみなヤンキー小林くんと変わり者な宇野くん。全然違うふたりがちょっとしたきっかけで友達になっていくはなし。よく解像度が上がるっていうけど、「よくわからん変なやつ」だった相手のことを知って世界が広がるのっておもしろいよね。

「そうなんだよなあ、そうなんだよ」
真っ先に同意の声をあげてくれたのは、なんとか長だった。
いつも仏頂面で、岩みたいな怖い顔を涙で濡らしていた。
泣きながら「そうだ、この会社はそうなんだ」「自分もそうだった」と繰り返していた。

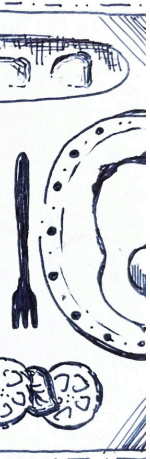
それまで大人の男性は人前で泣いたりしないと思っていたし、こいつにそんな気持ちないだろうと勝手に思い込んでいたので、ものすごくびっくりにした。

まさに青天の霹靂。知らなかった、気づかなかったけど、もしかして私以外の人も苦しいことがあるのかも？怖くて、横暴で、嫌な奴だと思う人も、裏側から見たら弱くて繊細な頑張り屋だったのかも？泣き崩れるなんとか長の姿はそれから、自分の暴走する心の小さな重しになった。

自分のしんどさを誰かと比べられるのはものすごく不愉快だし、人にも自分にもしたくない。「○○の人はもっと苦しいんだぞ」とか。でも自分のしんどさを訴える時に、「この人も、あの時のなんとか長みたいに何かを抱えているのかも」と立ち止まって考えるようになった。苦しい時には気づかなかったけど、そうやって思いもかけない誰かの一面を知るのはいけっこう楽しいことでもあった。誰かの不器用な優しさや、心のやわらかいところを知ること。知る前は記号だった相手の存在が、色を持って自分の世界に入ってくる感じ。なんとか長のことは今でも別に好きじゃない（恨んでもない）けど。

だけど、あの時泣いてくれてありがとな。

な
な
お



次回予告

さて、次のhanpoがいつになるのかな？

というところではあるのだけど

次回のhanpoのテーマは

「

です

っぽい、あなたの紹介したい本や、音楽、ゲームやらなにやら募集しますので、こそっと編集部にご教えてくださいね。

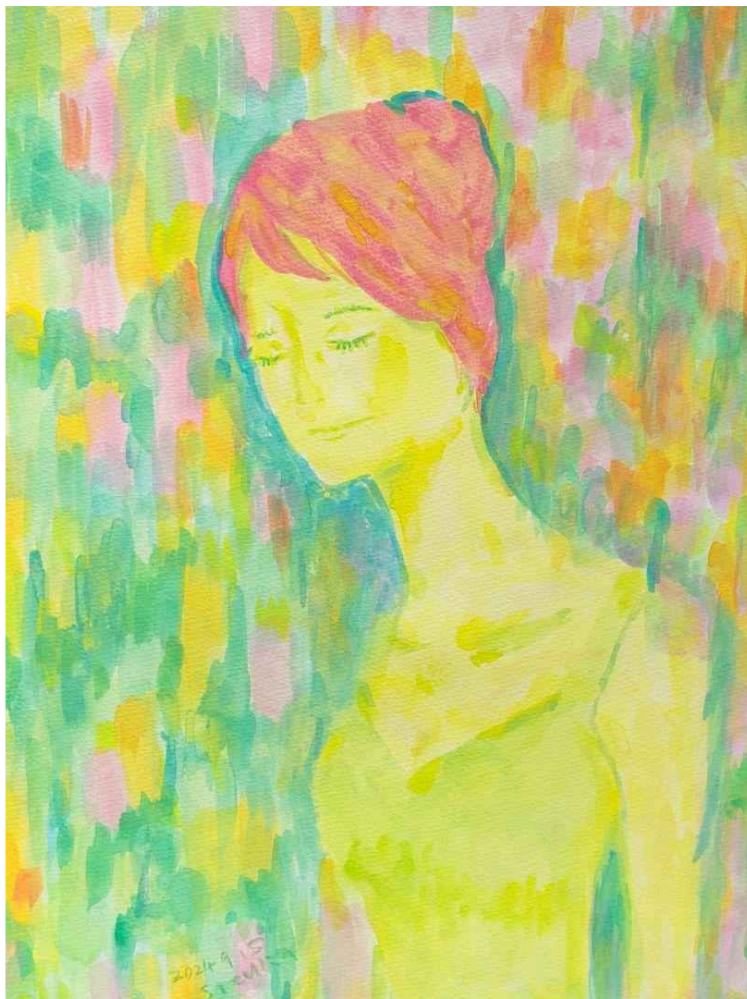
編集後記後集編

思いがけないものっていう無茶なテーマだったんだけど。
これを日常の中で探そうとすると、認識した瞬間に日常になっていて、
思いがけないものからすり抜けていく、とんでもない哲学だったなと反省。
僕は、ここしばらく、人に話をすることが多くなって、
自分のトラウマから少し距離を置いた「経験者」なんだって思っていたんだけど。
大丈夫だと思って話をはじめたら、涙が止まらなくなっていて。
自分はまだまだ全然自分のトラウマを受け入れ切れていない、当事者なんだって思い知った。
まだまだ、この片足は暗闇の中にいる、hanpoだ。
くさふか

いままで食べた中でいちばん美味しい
プリンに出会ってしまったかも…
みなのもの、ちょっと頑張っちゃった日は
サイゼリヤのプリンで祝杯を。
なお

最近、本州で唯一運転したことのない「山形県」と「福井県」へ
思いがけないもの、こんなに軽やかに本州全都府県にいけるだなんて
別に用事なんてなかったのだけでも。
ゆず

誕生日に「プレゼントなにがいい？」と聞かれて
「あなたのチョイスに任せる！」と意地悪を返すのは
思いがけないこと に出会いたいから。
はふり



「ひかり」

いつも使うのは
黄、青、赤の3色だけ。

毎回、同じ色はつくれないけど
こんな色が欲しいと思った色を
作れるようになってきた。

すこし足しては、混ぜて、
知らなかった色がでてる。
隣り合った色が、思いがけずきれいで
ずっと見惚れる。

表紙/ロゴデザイン ロクガワトモヒロ 裏表紙「空想ハピネス図鑑」アオヤギマユミ
奥付/イラスト・テキスト shizuka 挿絵 ぼち・はふり

「hanpo」のその他の情報や記事の続き、詳しいイベント情報は

⇒のQRコードの先

「hanpo」note版に記載されています。挿絵イラストとか
記事を書いてくれる方を募集中興味のある方は連絡ください。
また、ご意見ご感想あと寄付とかカンパとかお待ちしております。



—ご寄付のお願い—

これからもより多く、半歩先の声を届けるために寄付をお願いします。

<寄付振込先> ゆうちょ銀行 <振込先口座名> hanpo ハンポ

<店名> 059店 <当座> <口座記号番号> 00510-5-0053632

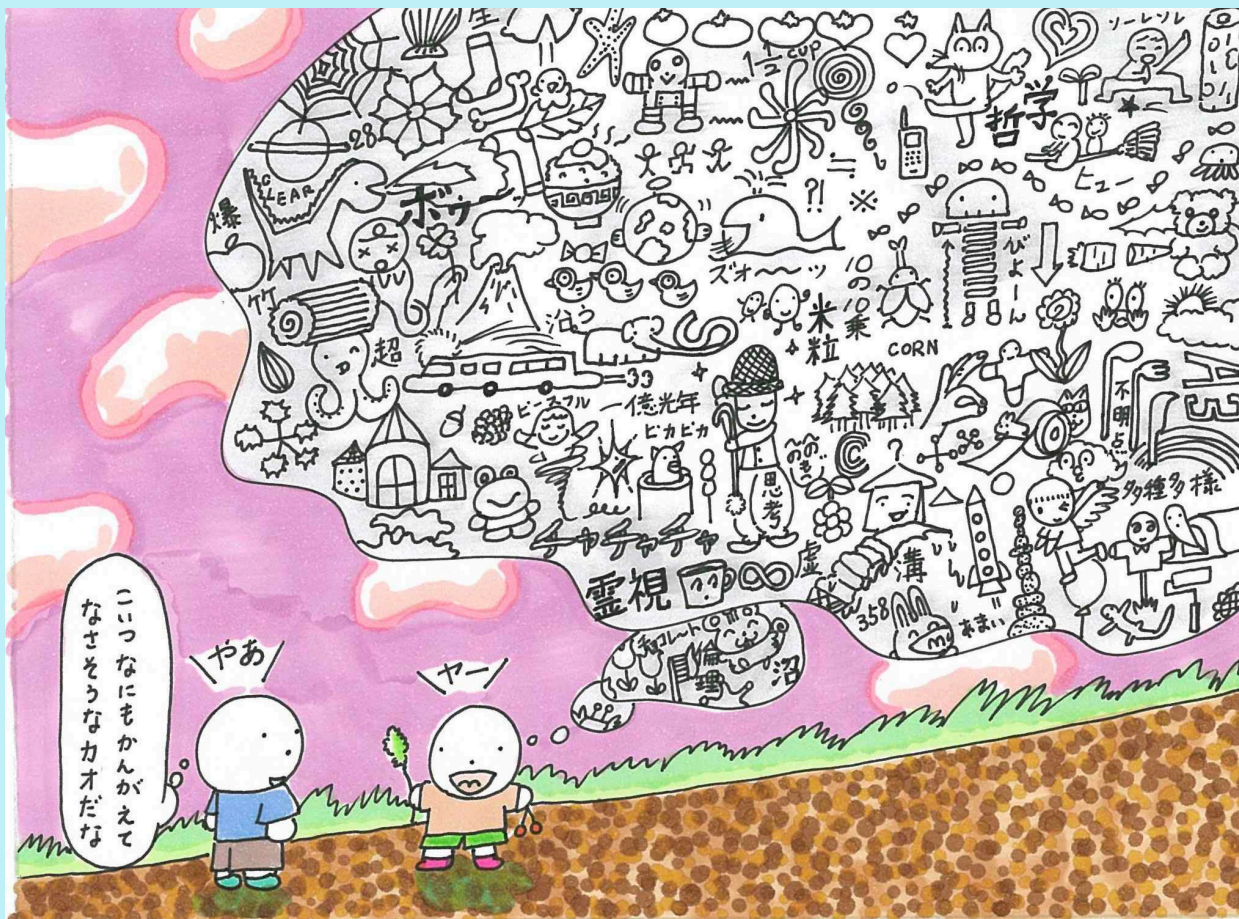
-お問い合わせ連絡先-

hanpo 編集部 ⇒⇒⇒ Email hanpoedit@gmail.com

◇Twitter [@hanposakino](https://twitter.com/hanposakino)

◇Facebook [hanpo](https://www.facebook.com/hanpo)

◇note [hanpo](https://note.com/hanpo)



hanpo

ナガノで暮らすマイノリティを生きる僕らのために、僕らが作るフリーペーパー

◇ 発行 hanpo編集部 ◇ 後援 長野県

協力団体◇一般社団法人にじず ◇上田映劇 ◇みんなのお家すまいる
◇登校拒否を考える親と子の会ブルースカイ◇長野県チャイルドライン推進協議会